

佐賀空港への オスプレイ配備問う

貝田 義博 議員



垂直離着陸機MV22Bオスプレイ

答 仮に市上空を飛行するとなれば
適正に対応する

問 防衛省は7月、オスプレイを佐賀空港に配備する計画を突如発表した。常々、安全・安心のまちづくりを主張されている市長の見解はどうか。

市長 市に具体的な説明があつたわけでもないため、詳細は分からない。仮に市上空を飛行するとなれば適正に対応する。

**公共工事などの
公契約に関する
条例制定を**

問 地方自治体と民間業者との間に結ぶ公契約において、生活できる賃金や人間らしく働ける労働条件などを確保するため、公契約条例を制定する自治体が増えてきている。市の条例制定への見解を求めます。

副市長 条例制定については、さまざま意見があり、メリット、デメリットなど慎重に研究する。今後、市民や事業者の意見も聞き、入札検討委員会でも調査、検討する。

問 新聞記事では、実施自治体は概ね評価しているようだがデメリットとは。

契約管財課長 デメリットと言うより、課題という捉え方である。1つは、基本的に人件費が企業側で増加する。2つは、企業側の責任や義務を条例で規定することから、実務上は難しい点もある。

問 庁舎建設については、以前の議会答弁で「庁舎のあり方検討委員会」を設置して進めるとのことだったが、メンバー構成及びその協議内容は。

契約管財課長 副市長を委員長とし、関係部課長で構成、8月18日に第1回の会議をした。内容は庁舎の現状と主な問題点の把握。本庁舎のみならず、消防署や勤労者家庭支援施設など含めた行政機能全体での庁舎のあり方、市民や議会からの意見集約の方法をどのように進めていくか、中長期的な日程案を協議した。

問 仮に市長が代わっても委員会での協議は継続してもらいたい。

市長 任期3年余りの間は誠心誠意頑張っていく。

心配される庁舎建設の 進捗状況は

松竹 秀樹 議員

未来を担う

子供の育成は

問 国際貢献できる人材がいま求められていると思うが、国際化社会に対応できる子どもの育成についてはどう考えるか。

教育長 国際化に向けては英語教育の充実も必要

答 中長期的な日程案を協議している

だが、国語教育、自分の考えを伝える力、わが国の伝統文化や歴史も勉強する必要はある。特に主体性や自覚などの育成を義務教育で図ることも重要。その点を踏まえ、バランスよく教育をしていくことが大事と考える。



壁面の窓ガラス多使用など耐震構造に問題ある市庁舎